

第2号
令和4年1月14日
国語科1年担当
堀之内・綾間・奥池



長男の背はわが耳に届きいて
残り少なきアドバンテージ

十四歳の君へ わたしたちの授業

八月十二日付宮崎日日新聞に掲載された二名の作品を紹介します。

漫画家 ヤマザキマリ 「美術」

「芸術や漫画は心の栄養素」

・芸術は古代から残ってきた

・描きたいものを描こう

・美術館で違う価値観感じよう



一組 尾方望桜

昨年十月ごろまでは中学受験を真剣に考えておらず、まさか自分がいまこの学校で中学校生活を送っていると思っていません。「世の中、何があるかわかりません」という言葉にはとても共感した。小さな出来事が「きっかけ」となり、いずれ人生を描いていくと思うと、これからは楽しみだ。



二組 演田茉希

絵を描くことが好きだった。ただ、描いて褒められないうと不満だった。よく考えると、筆者の言うように「表現したいと思うことに意味がある」気がする。自分の見ている世界、求めているものが全てではなく、何かすることによって新しい世界が見えてくると思う。



百字の獅子、始動！

毎月三つのテーマの中から一つを選び、百字ビッターを目指して由に文章を作ります。第一回の八月のテーマは「黄」「山」「水」、第二回の九月は「黒」「スポーツ」「果物」でした。秀作を紹介します。



〈果物〉
「別れの月」

一組 柿崎世成



十月は涼しくて良い月だが、私には別れの月でもある。毎年飼っているクワガタが、どうやっても十月には死んでしまうのだ。寿命でぼろぼろになった体をひきずって、果物にかじりつく姿を見ると、なんとも悲しくなる。

▼小さな存在に向けられたまなざしの温かさが感じられる作品です。

〈水〉
「大淀川の保全活動」

二組 錦織慧樹



僕は大淀川の環境保全活動に参加している。小魚の放流や、絶滅危惧種タコノアシの保全などの活動をしている。しかし、人間が川岸や河原にゴミを捨てるために、大淀川の環境や水質が汚されているのを残念に思う。

▼実際に活動しているからこそ人と違った視点で、実感のこもった文章を書くことができましたね。

〈黄〉
「ヒマワリと理想」

二組 由良莉々花



今年の夏休み、家の近くにヒマワリがさいていることに気付いた。リんとしている、常に太陽の方向を向いているヒマワリに魅力を感じた。私も、ポジティブにそして自分の軸をしっかり持つような人になっていきたい。

▼簡潔で明快な文章です。由良さんの前向きでまっすぐな姿勢がそのまま表れていますね。

〈スポーツ〉
「楽しさは、裏の努力から」

三組 田中美羽



ポワント、センター、腹筋……優雅な雰囲気の中に、地獄のような特訓が待ち受けているのがバレエだ。しかし、コンサートが成功した時の達成感はずいぶん仲間と努力し、作り上げることができるとは、楽しい。

▼対比を用いながら、バレエの魅力を上手にすっきりとまとめることができました。

〈黒〉
「夜空」

三組 鳥越心咲

学校帰りに、ふと夜空を見上げると、星が綺麗に輝いていて美しかった。部活後で暑かったから、全身に夜風があたつてとても気持ち良かった。だから、たまには、夜空を見上げながらリラックスするのもいいなと思った。

▼素朴な文章から、その時の景色や感情がありと伝わってきます。ほっこりする文章ですね。

コラムマラソン 第二回 「書き順の理由」

奥池大和

みなさんは、ひらがなの「な」ってどう書きますか？ 特に、一画目と四画目はどこですか？

年末年始に、学童で働いている親戚から、最近の小学生は「な」の書き方がバラバラだという話を聞きました。文を横書きで書くことが多いため、横書きで書きやすいように文字を書くからという理由のようです。

物事にはだいたい、原因や理由があります。「別にいいじゃん」という姿勢も時には大切ですが、それで流してしまつてよいのかと立ち止まることも忘れないようにしたいものです。その結果消えていってしまうものがあるかもしれないのですから。

書き順なんて、漢字なんて、文法なんて、日本語なんて……とならないことを心から願っています。